



遠藤れい子ひまわりレポート

○遠藤れい子事務所 〒940-0052 長岡市神田町3-1-3
☎ 0258-32-1741 fax 0258-32-6443



総選挙の結果

高市首相の暴走は許されない

日本共産党 2月9日 しんぶん赤旗「主張」



2月9日 街頭から当選のお礼と今後の活動の決意を述べる4人の衆議院議員
(左から) 塩川鉄也議員、畑野君枝議員、辰巳孝太郎議員、田村智子議員(党委員長)

総選挙の結果、自民党が結党以来最多の衆院で3分の2を上回る議席を確保しました。「信任を得て、国論を二分するような大胆な政策、改革にも果敢に挑戦したい」と解散した高市早苗首相が選挙結果を受け、「戦争する国家」へ

暴走するのではないかと危惧する声があがっています。とんでもないことです。国民は「国論を二分する」問題を白紙委任などしていません。日本共産党は高市政権の暴走と真正面から対決します。

「首相の言動は肝心の説明を避け続け、逃げの姿勢」国民に対して不誠実だ(「朝日」社説)と指摘されました。それどころか選挙中唯一の党首討論会さえキャンセルしました。疑問と批判の声があつたのも当然です。日本共産党の田村智子委員長が「党首討論の再設定を」と求めましたが応えませんでした。

開票結果を受けた会見では、憲法について「自民党の党是だ。具体的な案をしっかりと憲法審査会で審議いただければ」というのが「ありがたい」とねらいを隠しません。これまで「封印」してきた靖国神社参拝問題にも言及し「環境を整えるために努力している。同盟国や周辺諸国にも理解を得る」とのべました。

もともと高市首相が解散したのは、臨時国会でも議員定数削減法案が審議されなかったように自民・日本維新の会による政権運営が行き詰まっていたからでした。公示日の街頭演説でも「衆院も参院も少数だった。(政権は)不安定だ。はつきり言って行き詰まっている」のべていました。これを党略的な解散・総選挙で反動的に打開しようというねらいでした。

■論争からは逃げて

それだけに論戦もきわめて異様でした。高市首相は消費税についてこれまでの態度を急転、食料品2年間ゼロを打ち出し、26年度内実施まで主張しながら財源は明示せず批判されると口にしなくなるなど、くらしの問題でも平和の問題でも説明を避け、ブレが目立ちました。そのため、

自民党の議席は党略的解散をし、討論から逃げ、国民に考える時間も材料も与えずに手にしたものといわなければなりません。立憲民主党が解体し、自民党との合流もありうるとする中道改革連合となり、自民党政治との対決軸を見えなくしたことも、自民党勝利を手助けしたものととして重大です。

高市首相が多数議席を背景にして問答無用にゴリ押しすることは許されません。高市首相の危険な動きに総選挙中から多くの識者が危惧の声をあげています。日本共産党は戦争への道に反対するたたかいを多くの方々と力を合わせてすすめ、その先頭にたつ決意です。

自民党の大勝を受け、さつそく高市首相は、「首相のクビをかけて臨んだ選挙だった。公約を確実に実現することに没頭する非常に重い責任をおっている」と強硬な姿勢をあらさまにしています。「戦争する国」へ、安保3文書の「旧来の延長ではない抜本

遠藤れい子の笑顔でファイト
柏崎刈羽原発の再稼働に反対します。